

いじめ問題に立ち向かう

—28—

予防教育⑥

この前は、小学校3年の授業を見た。目からうろこが落ちる授業であった。小3から中1まで同じ理論と共通方法で貰かれると授業開発者が自慢していた。別の学年でそのことを確認したい。

「感情の理解と対処の育成」である。ここでの感情には、これまで強調してきた情動も含まれている。感情の教育は感情に気付き、理解し、対処(対応)するという、三つの要素とその流れが重要になる。

感情の気付きは、自分や相手の活動がどうやら重要なことになる。予防教育の授業では、子どもたちの活動をどうやら重要なことになる。予防教育の授業例 その2

感情の種類を理解し、対処へ

しかし、純粋に研究細かくなった教育が、実際に学校現場でその実践を見せつけるとは…。しかも、見てもらって勝負だと自信満々。トップダウンではなく、草の根的に広まりたいと言っていた。踏みつけられても枯れない、この教育は。

▼感情の教育の位置付けと基本方針

4本の教育の柱の中でも、自己信頼心(自信)の

相手がどのような感情を感じているか分かること、感情の理解は、感情が生じた原因や思考を見つけ、感情の種類や強さの意味を理解すること、そして感情の対処は、自分や相手の感情へ適切に対処する方法を実践できることを目指す。いじめ加害者は、この感情の理解や対処に大きな問題を持つ。

この三つの教育要素が中位の目標となり、その下に六つの下位目標、さらに18



山崎 勝之 鳴門教育大学大学院教授 予防教育科学センター所長



それでは、6年生の「感情の理解と対処の育成」の授業を紹介しよう。今回も、一授業(2時間目)を取り上げてみた。再びライブ形式の紹介になる。

①授業時の注意、②授業の目的、1時間目アニメにより授業の注意事項は説明済み。この回は簡単に伝えるのみ。本時の操作目標は、

児童が作った円環モデル (A3判シート)

円環(えんかん)モデルに4つの色もちあててみてみよう

救うため、国民に女王の気持ち、女王に国民の気持ちを気付けさせる勇者を探し出し、国を救う旅に出る。2時間目は、泳ぐ一角に四つの気持ちの小型カードを当てはめる。その理由も考える。小学生には高度過ぎる課題だ。なのに、どの児童も真剣なのはなぜだ。児童は考え込む。その沈思が、次の活動クワイマックスでの爆発を予言する。

防教育科学センターは過去3年かけて授業を開発してきた。そして今もなお、授業実践が終わるたびに授業は改善されていく。この授業は行き着くところがない。それほどに、理論が示す授業の在り方は深く、発展する余地を残し続ける。開発された授業をそのまま実施するのよすがが、学校教員が、理論を理解した後に修正をかけ、発展させるのが理想となる。

▼実際の授業例 その2

「感情の理解と対処の育成」の授業を掲示物を使って平易に伝える。感情の授業では、小5までは自分の感情、小6からは他者の感情に焦点が当たる。③導入アニメ・ストーリー ここでアニメは、暗く凍てついた国を光の国へ救う物語。国民の気持ちが理解できなくなった、太陽と閉じこもり、女王を失った国は凍てついてしまう。動物の家来たちはこの窮地を同じ気持ちを書く。ここで、心理学で有名な円環モデルが登場。これは、感情の次元を活性化(活発から不活発)とヴァレンス(うれし)とヴァレンス(うれし)に分けたモデルで、その2次元シートを出す。シートには次元の円周上に12の窓があり、そこに四つの気持ちの小型カードを当てはめる。その理由も考える。小学生には高度過ぎる課題だ。なのに、どの児童も真剣なのはなぜだ。児童は考え込む。その沈思が、次の活動クワイマックスでの爆発を予言する。